

Information 会員便り

事務局からのお知らせ

▼前号でもお知らせした第2回全米女性スポーツ会議(ニューアジェンダII・6月19日・21日)が米国のインディアナポリスで開催されました。WSF Japanからは清和洋子さん、高橋昭子さん二人の会員が参加しました。

1983年、ワシントンDCで開かれた第1回の会議では「女性スポーツの未来・その写真」がメインテーマでした。今回はそれをさらに具体化し、「少女のスポーツ参加」について話し合いがされました。分科会、フィルム上映、有名選手によるデモンストレーションなど、盛りだくさんの内容でした。

参加者は米国内・外から約300人。指導者、研究者、選手などその99パーセントが女性でしたが、数少ない男性参加者も熱心に耳を傾け、積極的に意見を述べていました。

会議の詳細を次号でお伝えする予定です。

▼21世紀には、4人に1人が老人という、人類が今までに経験したことのない高齢化社会を迎える日本。そこでは、今まで以上に、健康問題の比重が高まります。スポーツを通して健康問題にもかかわっている私たちも、一度

はその原点をさぐり、今後の方向を考える必要があるでしょう。

今回、会員の皆様に健康関連の企業、団体で作られている「健康フォーラム」が主催するシンポジウム「21世紀健康長寿社会をひらく」のご案内を、機関紙と共に送ります。参加ご希望の方は、同封申込書の所属団体(会社名)の欄にWSF Japanをご記入いただければ、会員扱いの参加費となります。ご不明な点は、当事務局までお問い合わせください。

▼今号掲載の女性スポーツ日韓比較・下(2・3ページ)のイム・ボンジャン氏の講演は、1985年9月、ソウルで開かれた「女性体育振興セミナー」の報告書から抜粋したものです。

このセミナーでは、前号のクロイズアップ・インタビューでお話を伺った韓良順さん(ハン・ヤンスン大韓体育会女性体育委員会委員長)の「現代社会における女性体育の役割」をはじめ、チャン・チュッホ氏の「女性体育専門指導者養成の方向とその問題点」などの講演がありました。韓国でも女性スポーツは、今、人々の大きな関心事の一つになってきているようです。

▼女性がスポーツをする時、男性とは異なった様々な問題に出会います。からだの違による悩みもその一つでしょう。

そんな女性のためのスポーツ医学書「女性版 ザ・スポーツメディスン・ブック」(モナ・シャンゴールド医学博士、ゲイブ・マード医学博士共著、石河利寛、山川純監修)がブックハウス・エイチデイ社より出版されました。

運動と月経不順、無月経、出産後どのくらい経てば運動を再開できるか、といったことから、栄養や肌の手入れのことまで細かく書かれています。女性ばかりでなく、男性指導者などにも読んでほしい一冊です。

今回、WSF Japanを通じてご購入いただくと、定価(2000円)の10パーセントが組織の運営資金になります。この機会に是非ご購入をお勧めします。さらに関連諸団体・機関へもご紹介いただき、できましたら最低10部程度でまとめてご注文いただければ幸いです。ご注文に際してはお電話にて直接事務局(03・467・5211)までお申し込み下さい。

新会員紹介

▽島川嗣世(京都府 京都市)

▽土谷敏之(東京都・千代田区)

▼会員の皆さんの物心両面のご支持により、WSF Japanは運営されています。お手数ですが、昭和62年度の会費を同封の用紙にてご入金下さるよう、お願いいたします。

WSF Japanとは

WSF Japan(女性スポーツ財団日本支部)は、米国のWSFをお手本とし、日本の女性スポーツの発展、振興を目指し昭和56年12月に旗揚げされた非営利の団体です。会員は選手、指導者をはじめ、一般のスポーツ愛好者、研究者、スポーツビジネスにかかわる企業関係者など、男女を問わずさまざまな分野にわたっています。

運営は会員の会費を財政基盤とし、ボランティア活動によって支えられています。

入会金

個人会員……3000円

団体会員……5000円

年会費

個人会員……8000円

団体会員……15000円

WSF Japan News

第12号(季刊)秋季号

発行 昭和62年10月

発行人 三ツ谷洋子

編集 SPORTS 21

発行所 W.S.F. JAPAN

〒154 東京都渋谷区西原

3-36-23-202

☎ 03(467)5211